



令和三年睦月

城北中だより

城北中学校教育目標	生徒数
○思いやりのある生徒	1年 157名
○真剣に学ぶ生徒	2年 176名
○健康な生徒	3年 156名
	特別支援学級 7名
	全校生徒数 496名

節目から気付く

校長 玉崎 芳行

令和2年12月31日、自宅テラスから大晦日の夕陽を眺めた。西の空を紅に染め、霊峰富士の北稜に沈まんとしていた。令和2年を振り返った。成し遂げたこと、やり残したこと、様々な思いが甦った。夕焼けは、何故か自分を感傷的な気持ちにする。令和3年1月1日、元旦の日の出を拝した。東雲を黄金色に輝かせ燃える朝陽が眩しかった。新春の潔い冷気が身を引き締めた。新しい年を迎え、静かな高揚感が湧いた。朝焼けは、不思議と力をみなぎらせてくれる。

私たちの生活には、暦や節目がある。それらは、例えば、人類の歴史の中で、農耕文化の発展を通し、適切な農作業の時期を知るため、昼と夜、月の満ち欠けや季節の推移などの周期性などから生まれてきたものではなかろうか。そのような先人の知恵を礎にし、私たちは、「節目」という考え方を、生きていく中で大切にしているようだ。

巷間では、新しい年を迎えると、人は新たな誓いや志を立てることがある。学校に置き換えると、新学期や新年度がそれにあたる。“節目”は、始まりに目が行きがちだが、結びがあつての“節目”となる。結びも大切にしたい。

令和2年度第2学期の放送による終業式での、各学年代表生徒による学期の結びは大変素晴らしかった。特に、3年生代表の那須野翔さんの言葉には、仲間、家族や先生への感謝、義務教育修了への最後の目標「自律」への意識、そして、後輩に対し、己の経験を踏まえたエールとチーム城北の伝統継承への信託が込められていた。本当に立派であった。

令和2年最後の夕陽と令和3年最初の朝陽と向き合い、その「節目」で改めて考えたことがある。『どうして私は、こんなにも”チーム城北“が好きになったのだろうか?』ということだ。その解を私なりに導いた。

皆が、様々な体験や経験、そして色々な思いが込められた時間を大事にし、たとえどんな環境に置かれようとも、互いに尊重し合い、それぞれが自分らしく輝いている。時代や世相によって常識は変容するが、チーム城北の同志は、良識を磨き合い大切にしている。良識とは、時代や世相、人種や性別、国境などに関わらず、人が人として共に生きていく上で大切なものではないだろうか。常識だけでなく、温かい良識を、私は皆から感じるのだ。… だから私は、”チーム城北“が、好きなのだ。

“節目”は、様々なことに気付かせてくれる。今年も、“節目”を大切にしたい。